



しらさぎ福祉園 ~手織り作品集

「生きづらさ」雑感

社会福祉法人 永美福祉会

理事長 沢田 一郎



皆さま方には、日頃より当法人事業にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

3年におよぶ新型コロナウイルス感染症による活動制限は、本年5月より緩和されましたが、その影響は様々なところにおひましました。このままコロナ禍以前の状況に戻ることができるのか、この間に学んだ知見を今後ご生かして対応して行くことが求められます。

さて、本年4月内閣府より「令和4年度子ども・若者の意識と生活に関する調査」が発表されました。その調査によると、15歳以上～64歳以下で就労せずご家庭にいるいわゆる「ひきこもり」と言われる人（「趣味の用事の時のみ外出する」「自室からほとんど出ない」などの状態が6ヶ月以上続いている人）が不登校も含めて全国で推定約150万人になっています。この年齢層人口の50人に1人とのことです。コロナ禍という時期の失業など経済的社会的要因の関連性も指摘されていますが、仕事上の精神的ストレスと健康リスク、家族を含めた人間関係などが背景あり、多面的で複雑ご絡みあっていることは明らかです。当事者にとっては家庭や職場、地域社会において『生きづらさ』を感じている状況が色濃く存在していることが推測されます。「いじめ」は言うに及ばず、当事者を取り巻く様々な精神的圧力が個人の生活を揺るがす社会構造になっているという現実を認めないわけにはいかないでしょう。現代社会において、特にそれが影響を受けやすい方たちにおいて顕著になっているということではないでしょうか。

私たちは、すぐ当事者本人の自己変容への努力を求めがちです。しかし、今一度それを語く前に、私たちの社会の規正しさ、丁寧さなどの一方で、その背後に存在する「排他意識」や集団への「同調圧力」など様々な別の側面も認識しつつ、『生きづらさ』を受け止めていく姿勢ご出発点ではないでしょうか。「時間」をかけて付き合うことを忘れてはならないと思います。

「個人の尊重と多様性社会をめざす。」とのかけ声叫れごならないよう私たちの認識の寛容が求められています。コロナ禍を経て轉換しなければごならない課題が自分たちに向けられていることを感じるこの頃です。



「私たちが求められる専門性って何だろう」 しらさぎケアホーム 管理者 野呂大悟

しらさぎケアホームは、今年から雑草で悩まされていた土地を開墾して畑に変えました。野菜作りにおいては何もかも初めての事で、きちんと野菜が育つのか不安でしたが、多くの方のお力添えの結果、見事な畑が出ています！「新鮮で安全な野菜を食卓へ」を目指しスタートしましたが、色々とアドバイスを受けていくと野菜作りの奥深さを感じるとともに、的確なアドバイスに「専門的だなあ〜」と感心するばかりです。

専門的とは、「特定の学問分野・仕事領域・事柄だけに深いかわりがあること」や「特定の学問分野・技術・知識などに精通してとても詳しいこと」と辞書で調べると出てきます。

私たち福祉職は「専門職」と言われます。「専門職」とは、「専門性を要する仕事」と定義されています。では、私たちの専門性とは何でしょうか？ここからは、私個人の見解です。

私の福祉感としての専門性とは①「情報量」②「発信力」③「経験」の3つだと考えています。

①**情報量**とは、目の前の利用者や園児のことを「知る」ことや障がい特性における（子どものことも）知識はもちろん、ご家族のこと、共に働く職員のこと、制度のこと、事業所のこと、法人のこと、地域のことや福祉に限らず社会で巻き起こっている様々なことに目を向けて情報を集めるという事（興味関心を持つ）。「判断力の差は情報量の差」なんて言葉があるように、情報量の多さは仕事をすすめるうえで最も大切なリソースといえるでしょう。

②**発信力**とは、自分の考えや思いなどを相手へ伝える力ということです。伝えるだけでなく、相手への「伝わった・理解できた」という相互理解を意識することと、言葉だけではなく「行動・実践」することによる発信も大切となります（ここが最も難しいです…）。

③**経験**は、「長く続けること」もありますが、何も考えずにひたすら経験年数だけ獲得しても意味はなく、毎日が気づきと反省と達成感と学びの連続性のうでで持続していくことだと思います。

専門性を身につけていくには、この3つを意識しながら、一つひとつの道のりを地道に歩いていくことしかないと考えています。いくら情報量があったとしても、それを発信したり行動に変えなければ、結果として何も無いのと同じです。いくら、行動力や発信力があっても、情報がほとんどない場合は説得力がなく、思い付きだと思われることもあるでしょう。いくら情報量や発信力を兼ね備えたとしても、経験がまったくなければ、対人援助における信頼関係の構築は難しいかもしれません。

私は、出来ている出来ていないは別として、この3つのバランスを常に心がけています。心がけは意識に変わり、意識化はいずれは習慣となります。最初は何事もしんどいですが、習慣化されれば、どこかに余裕が生まれ、また新しいことに挑戦できるかもしれません。その繰り返しで、人は育まれていくのでしょうか。

そんな偉そうに言える立場ではありませんが、…。ダラダラと個人的な考えを書きましたが、お読みいただいた皆様、今後とも、しらさぎケアホームを末長くよろしく願います。



ほ・ほ・ほ

～ほんわか・ほっこり・ほほえましい～
そんな一場面をお届けいたします！

療育活動での1枚
狙いを定めて
投げています☆

手先が器用な
選手権！！

「見て！
ダンゴムシ散歩
してるんだよ😊」
とにっこり♪

ブランコ楽しい～♪
かるがも園

しらさぎケアホーム

唐臼こども園

異年齢で宅急便ごっこ♪
「宅急便で～す！
荷物を届けにきました♪
ここにサインをお願いします。」

彩雲館

神島田こども園

ホームヘルプステーション

最近パズルが
マイブームです。
はい！完成～☆

彩雲館ケアホーム

利用者の方の
大切なパートナー☆
『盲導犬のはなちゃん』
お仕事の合間にほっと一息。

4年ぶりの
藤まつりに行きました！！
みんなウキウキ(*´艸`)



ながみんのひきだし

それぞれの日常

～ 一歩前へ～



しらさぎ福祉園

コロナウイルスが5類感染症移行に伴い、徐々にマスクを外して
すごされる利用者の方が増え、少し前の普通の日常が戻りつつあります。
又、しらさぎふれあいフェスタでの地域の方との交流行事の再開や園外へ
のお出かけ活動等も予定しております。これまで行ってきた手洗い、消毒の手指衛生
や部屋の換気、食事場所の飛沫防止対策での環境管理等、基本的な感染症対策は
継続して行っています。

しらさぎケアホーム

必要な感染対策・予防を継続しながら、好きなことをして楽しんでいます。
一緒に野菜を収穫したり、自分のお部屋をきれいに掃除したり、何気ないこと
でもお互いの表情を確認できる喜び。マスクを外すと自然に笑顔も増え、嬉しい
こと、楽しいことを分かち合える、当たり前のように、それが一番の幸せと感じて
生活しています。



彩雲館

5月13日(土)に津島西小学校で第3回彩雲館運動会を開催しました。
今年度は高校生のボランティア15名にも参加してもらいました。
第2回までは保護者のみの見学参加でしたが、コロナ5類移行に伴い、
しらさぎ福祉園、津島西小学校の学童の皆さんも見学に来てくれました。
沢山の方々の声援により、利用者、職員一同今まで以上に張り切って楽しんで
参加することができました。

彩雲館ケアホーム

自然体で生活できるようホーム内ではマスクを着用しないことや、
食事もリビングの食卓でとっていただくことなどを継続してきましたが
感染防止の観点から調理に携わることは制限を設けていました。
新型コロナが5類に移行することをきっかけに「自分たちで作って食べる」
という機会を再開しました。今回はお好み焼きと焼きそば作り。
完成後には職員も含めてみんなで賑やかに会食しました。





令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行してからの生活スタイルや行事など、永美福祉会の各事業所で**変化があったこと**をご紹介します。

豊田こども園

今年は三年振りに“なつまつり”が開催されました！
役員の方々が中心となって様々なゲームを考えてくださいました。
ゲームは「缶積み」「魚釣り」「わなげ」「景品釣り」と4種類あり、
スタンプラリー形式で行っていききました。缶積みでは、高く積みたい！という気持ちから、真剣な顔で缶を見つめ3～4個を器用に積んでいる子が多くいました。
他のゲームも笑顔で頑張っている姿が見られました😊今後も子どもたちが楽しめる行事を企画していきたいです♪



かるがも園

コロナが5類へ移行とともに、マスクの着用を任意としました。
親子の方々や職員の多くがマスクをはずして過ごすようになって
います。また、昼食もコロナ前に戻し、職員も一緒にお弁当を食べて
います。このことで、お子様たちが保護者や職員の顔や口元を見ることが
増えました。遊びの中で、お子様が大人の口に食べ物のおもちゃを入れる
真似をする姿がみられたり、職員と「同じだね」と弁当を見せあったり、
コロナ禍ではみられなかった人との遊びややりとりの根っことなる
かわりかかわりが生まれています。

神島田こども園

5月に年長組親子が東公園まで遠足に出かけました♪
今年度からコロナ以前と同様の開催方法に戻りました。
親子でプラネタリウムを鑑賞したり、遊具で遊んだり、芝の広場
ではみんなで“だるまさんころんだ”を楽しみました！
何より嬉しかったのが“大好きなお母さんの手作りお弁当”それぞれに
笑顔が溢れ、微笑ましいひとときでした。今後も親子や友達、地域の方々
との様々なふれあいの機会を大切にしていきたいです。



らさぎホームヘルプ ステーション

コロナが落ち着き始めた頃から長時間の外出も増え、
感染対策を徹底しながら支援を継続してきました。
5類に移行し、外出先で食事を楽しんだりマスクが難しい利用者様
もご利用を再開するなどコロナ以前の日常を取り戻しつつあります。
利用者様が制限のない安定した日常生活や余暇活動ができるように、
これからもサポートしていきたいと思ひます。

法人からのご案内



最新の情報は
ホームページへ
こちらの
QRコードから



法人役員(理事・監事)、法人第三者委員改選について

任期満了にともなう法人役員(理事・監事)、法人第三者委員に次の方々を選任されました。

任期については、令和5年6月22日から令和7年6月評議委員会終結時までとなります。

法人役員

- ・理事 長 沢田 一郎
- ・理事 石原 民敏
- ・理事 松永 信行
- ・理事 上赤 正文
- ・理事 山田 英治
- ・理事 吉田 一江
- ・監事 田中 和夫
- ・監事 肥田 正

法人第三者委員

- ・委員 服部 映次
- ・委員 田中 和夫 (敬称略)

法人へのご寄附ありがとうございました。

法人事業に対してご寄附をいただき誠にありがとうございます。

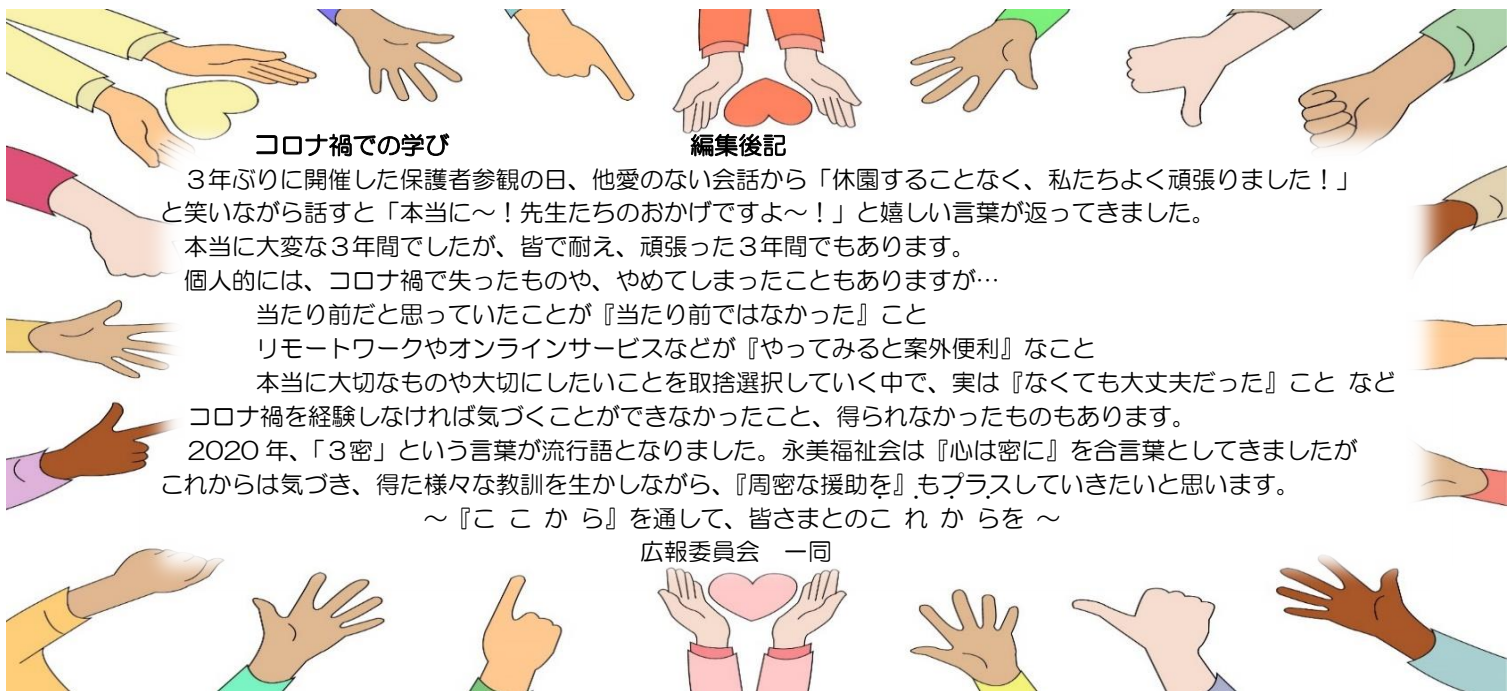
令和5年3月1日から令和5年8月30日までの受付分

竹田 寛 服部 映次 沢田 一郎 沢田 里美 伊藤 千代子

誌面掲載同意を頂いた方のみ掲載させていただいております。
(順不同 敬称は省略させていただいております。)

永美福祉会 事業所紹介

唐臼こども園 ★所在地 〒496-0026 津島市唐臼町郷裏 55 ★電話 : 0567-32-2126 ★FAX : 0567-32-2328	神島田こども園 ★所在地 〒496-0025 津島市中一色町東郷 4 ★電話 : 0567-31-0672 ★FAX : 0567-31-1805	かるがも園 ★所在地 〒496-0045 津島市東柳原町 3-69 ★電話 : 0567-27-3915 ★FAX : 0567-27-3916	法人事務局 しらすぎケアホーム しらすぎホーム しらすぎの家 しらすぎ第2ホーム しらすぎハイム ホームV6 彩雲館ケアホーム 七彩ホーム
しらすぎ福祉園 ★所在地 〒496-0004 津島市蛭間町弁日 177 ★電話 : 0567-25-8226 ★FAX : 0567-27-4080	しらすぎ ホームヘルプステーション ★所在地 〒496-0004 津島市蛭間町弁日 176 ★電話 : 0567-24-7729 ★FAX : 0567-24-7799	彩雲館 ★所在地 〒496-0863 津島市上之町 1-54-2 ★電話 : 0567-24-7111 ★FAX : 0567-28-5551	しらすぎ相談支援事業所 ★電話 : 0567-25-8290



コロナ禍での学び

3年ぶりに開催した保護者参観の日、他愛のない会話から「休園することなく、私たちよく頑張りました！」と笑いながら話す「本当に～！先生たちのおかげですよ～！」と嬉しい言葉が返ってきました。

本当に大変な3年間でしたが、皆で耐え、頑張った3年間でもあります。

個人的には、コロナ禍で失ったものや、やめてしまったこともあります…

当たり前だと思っていたことが『当たり前ではなかった』こと

リモートワークやオンラインサービスなどが『やってみると案外便利』なこと

本当に大切なものや大切にしたいことを取捨選択していく中で、実は『なくても大丈夫だった』こと など

コロナ禍を経験しなければ気づくことができなかったこと、得られなかったものもあります。

2020年、「3密」という言葉が流行語となりました。永美福祉会は『心は密に』を合言葉としてきましたがこれからは気づき、得た様々な教訓を生かしながら、『周密な援助を』もプラスしていきたいと思ひます。

～『ここから』を通して、皆さまとのこれからを～

広報委員会 一同